

# 春の褒章 県内から28人

春の褒章が28日付で発表され、県内からは28人が選ばれた。社会奉仕活動の功績をたたえる「緑綬」に1人、様々な分野で業務に励んだ人に贈られる「黄綬」に16人、社会福祉などに尽くした人を評価する「藍綬」に11人が、それぞれ選ばれた。受章者に喜びの声を聞いた。



「真心を込めて一着、一着を仕立てています」と話す稲澤さん(神戸市中央区で)

## 仕立てへの情熱衰えず

黄綬褒章

「柴田音吉洋服店」工場長  
稲澤治徳さん70  
(明石市硯町)

各界の著名人から愛される同店のオーダーメイド。入社4年目で縫製の責任者に抜てきされ、81年から工場長を務める。「世界に二

着しかないから、常に緊張感を持っている」と縫い上げ前の補正は卓越した技術を誇り、手がけた商品への愛着と自信がのぞく。着る目的など客と時間をかけて仕立ての細部を詰めていく。「最後に『良かった』と褒めてもらうことが何よりの職人冥利」。歴史や伝統技術を守り続ける一方、「いつも挑戦し続ける姿勢が大切」と、ものづくりへの情熱は衰えない。

## 1000人に愛情注ぎ45年

藍綬褒章

「御影乳児院」院長  
川村基子さん63  
(神戸市東灘区)



「子どもから人生の喜びを与えられた」と話す川村さん(神戸市東灘区で)

0人の寝食を支え、見守ってきた。「みんなの愛に支えられてきた仕事で、私だけの受章は重すぎる」と打ち明ける。

「もともと先生」と慕われる。洗濯や食事などのほか、乳児が初めて寝返りすればともに喜び、悲しければ一緒に泣いた。「愛情を注い

だ分だけ、子どもたちが愛情で応えてくれたからこそ、続けられた」

一方、里親を迎えられるなど巣立つ日は必ず訪れる。心の支えがなくなるよううつらい。だから一番の励みは、成人して元気な姿を見せてもらうことだ。現在、乳児院長として現場を見守る日々。「子どもたちのためにも、職員の内も

最大16連休で始まった今年の値下げで上限1000円となっ内の行楽地や観光施設では様を期待する。さあ、どこに出

◇…開催中…◇  
姫路城・特別公開 5月31日まで、姫路市本町の姫路城。普段は非公開の化粧櫓(やぐら)

## 喜びの受章者

- ◇緑綬
  - 吉田 一世68(社会福祉施設奉仕者) 高砂
  - ◇黄綬
    - 井手 章59(鑄物仕上工) 北
    - 稲澤 治徳70(男子服仕立職) 明石
    - 上山 嘉文73(マッサージュ院経営) 北
    - 小川 恵一郎82(教科書供給業) 北
    - 金岡 昭雄79(造園会社社長) 北
    - 河野 賢三61(県電業協会副会長) 北
    - 栗原 康高66(県鶏卵生産出荷農協組合長) 高砂
    - 中島 丈雄70(元空気圧装置組立業) 垂水
    - 能丸 喜義72(元大阪湾水先区水先人) 須磨
- ◇藍綬
  - 萩原 修58(数値制御御金属工作機械工) 姫路
  - 濱中 英男67(造船関連業) 姫路
  - 町田 清純81(郵便集配業務) 姫路
  - 松本 浩70(自動車整備業) 加古川
  - 三浦 喜太郎62(鉄道車両塗装工) 播磨
  - 三木 亮二54(製鋼工) 姫路
  - 森山 利隆61(航空機操縦業務) 東灘
  - 飛鳥 光恵78(県明るい選挙推進協議会委員) 明石
  - 上田 喜久子70(保護司) 西宮
  - 魚崎 幸子67(小売物価統計調査員) 垂水

〔注〕敬称略。氏名の下は年齢、職業または経歴、住所(市町名、神戸市は区)。五十音順。